

事後評価報告書
(日本-中国(NSFC)研究交流)

1. **研究課題名:** バイオ燃料と太陽熱のハイブリッド加熱のスターリンエンジンによる
熱電併給システム

2. **研究代表者名:**

日本側: 神奈川大学工学部機械工学科 教授 原村 嘉彦

相手側: Chine Academy Science, Institute of Engineering Thermophysics
Professor DaWei Tang

3. **総合評価:** C

4. **事後評価結果**

(1)研究成果の評価について

既存エンジンを用いて、バイオ燃料の実証実験を行い、基礎的研究としてはある程度の成果は認められるものの、研究目的であるバイオ燃料と太陽熱のハイブリッドエネルギー源による熱電併給を目指したエンジンの製作は未達成である。研究目的に対して成果が不足であると思われ、この点は残念な結果である。相手国の研究者と、どのように研究を分担し、相乗的に研究成果をあげるかについて、計画が十分でなかったように感じられる。

(2)交流活動の評価について

相手側から1年間の客員研究員を招聘し、その研究成果が論文となったことは、若手の人材育成を目的の一つとしている国際交流プロジェクトとしては、好ましいことであり評価できる。しかしながら、日本から相手国への訪問実績が代表者1名(3日間)のみと少なく、日本側から多くの参加者が相手国に訪問し、研究討論、交流を行うべきであった。双方ともに研究への学生の参加者が少なく、若手研究者や学生に国際活動の経験を積ませるような配慮が不足しており、残念である。

(3)その他

自己評価で「計画ほどの成果がなかった」としているが、当初の目的が達成できないような状況の中で、状況打開のための努力を双方で行うべきであった。そもそも計画段階でお互いの役割分担、検討課題などの位置づけが曖昧であったように思われる。